

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

令和元年 11月 12日

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○	可動の仕切りを使い、スペースを有効に利用しています。	利用児童一人当たりの広さは十分かつ法令基準も満たしております。今後も同様に定員に対して適切になるようスペースの確保に努めて参ります。
	2	職員の配置数は適切である	○	法定基準よりも多い職員を配置し、療育に関わる職員は全員保育士資格などの有資格者が対応しています。法令に従って配置ができるように職員全員で関わり、ミスのない様に三重のチェックを行っています。	平日は、同じ時間帯に児童が多く集まることもありますが、支援に支障が無いように適切に配置して参ります。今後も適切な人員配置とともに、利用児童数に合わせて更に人員の確保に努力して参ります。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○	玄関の段差には、色テープを貼り目立つように配慮しています。	車椅子の児童も在籍していますが、活動や支援に支障がないよう適切に配慮し、今後も更に工夫と改善を続けて参ります。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○	ケース会議やリフレクション会議で常により良い職場となるよう、努力しています。	毎日のミーティングで、課題点を話し合い、解決策を見出し、評価を行い、更に改善に努めます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○	アンケートやご意見を保護者様が出しやすいように玄関にご意見箱を設置しています。	提出されたご意見の検討を行い、業務の改善を行って参ります。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○	ホームページで公開し、その存在を保護者等へ周知しています。	結果はコンパスのホームページで公開し、改善に繋がるよう努めて参ります。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○	第三者による評価は、現時点では行えていません。	第三者による評価は現状では行っておらず、今後の課題とします。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○	毎月、職員研修を実施しています。	事業所内研修は月に1回以上は行い、外部研修に参加したものについては、情報共有を行い、今後も資質の向上に努めて参ります。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○	日々の支援の中でも特記事項は報告し合っています。	モニタリング後に保護者面談を行い、聞き取りや課題の見出しを一緒に行っています。今後もそれを踏まえ個別支援会議を行い、計画を作成して参ります。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○	書類の統一と整備を行い、年齢や児童の状況に合わせてアセスメントツールを使用しています。	今後も継続して使用し、適切にアセスメントツールを活用していきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○	管理者・児発管・児童指導員・保育士など、さまざまな立場で意見を出し合っています。	管理者、児発管、児童指導員、保育士など様々な立場で意見を出し合い決定しており、今後も継続して参ります。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○	活動内容は、自社のカリキュラムに沿って、固定化しないように行っています。年間計画の他、季節毎のプログラムは、その年の時事に合うように工夫しています。	年間計画や季節ごとのプログラム、その年の時事も取り入れるように工夫し、固定化することのないよう努めて参ります。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○	児発管作成のプランの根幹に沿って複数の職員が担当しています。	平日は連続性の課題、長期休暇には季節に合ったイベント等も取り入れ、その児童に合った内容にしています。
14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○	個別と集団の活動を特性や発達段階・年齢、保護者のニーズに応じて、計画的に組み込んでいます。	個別療育と集団活動を特性に応じて計画に組み込んでおります。今後も同様に支援計画を作成して参ります。	

この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝ミーティングを行い、支援内容の打ち合わせと、目的や注意事項を話し合っており、確認しています。	今後も毎朝ミーティングを行い、支援の内容とその意味合い、注意事項などを話し合い、今後も周知を図っていきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		職員同士は緊密な情報交換を行っており、都度振り返り、気づきの共有を図っています。	今後も気になった事などは、すぐに児発管、管理者に報告して共有し、対策を話し合っており、参ります。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		日々の活動は、必ず記録として徹底して残すようにしています。	今後も日々の療育内容は必ず記録として残していき、すぐに検証と改善ができるように心掛けて参ります。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年以内に必ずモニタリングを行い、支援計画を見直しています。	保護者様との日々の会話や面談からニーズを抽出・分析し、複数の療育担当の意見を踏まえたアセスメントを約5ヶ月毎に行った上で、児童発達支援計画を作成しております。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○		ガイドラインは職員が閲覧、活動が適切であるか確認を行っています。	4種の基本活動を、子どもの特性や年齢、季節等も考慮に入れて支援を今後も行って参ります。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会議には、児発管が参加するようにしています。	担当者会議には、児童の状況に精通した児発管が出席し、今後は、療育担当者もできるだけ出席するようにして参ります。
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		関係機関連携会議の開催を行ったり、送迎時に随時情報交換しています。	関係機関連携や学校お迎え時の受け渡しの機会に担当教員と情報共有を行い、行事や年間計画については、保護者様から何うよう配慮して参ります。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		医療的ケアが必要な児童は、診断書、情報提供書及び主治医や保護者から注意事項をお聞きして最善の対策に配慮しています。	初回利用前の書類の確認はもとより、毎回の利用時にも、体調や注意事項などの情報提供を受けるようにしています。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		就学前の様子についても、関係機関から状況が把握できるように努めています。	児童の発達に関して情報共有は大切ですので当該施設との連絡は積極的に行い、相互理解に努めて参ります。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		現在までに該当児童がいません。	次のステップへ向け、課題とされる内容などについての情報提供を行っていく準備はできています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		「子ども部会」の研修に毎回参加し、情報を得ています。	「子ども部会」は2か月に1回開催されるので、これからも積極的に参加し、研鑽に努めて参ります。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		現時点では行えていません。	放課後児童クラブ等と交流する機会も成長に必要な事だと思っておりますので、保護者様のご意向を頂きながら学校での交流以外にもそのような学びの場を検討したいと考えています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		2カ月毎に開催される「子ども部会」に、毎回参加しています。	「子ども部会」を始め、各種研修が行われる際は、これからも積極的に参加し、研鑽に努めて参ります。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		ご家庭との連携により、共通理解の機会を作り、情報共有を行うことが出来ています。	課題や変化、成長が見られた部分について保護者様と共通理解ができるよう、あらゆる機会をつくり情報の提供に努めて参ります。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		本年度は自宅でも日々できる療育についての講演会を保護者様にご参加頂いて実施致しました。	子育てについての相談や悩みを少しでも解決できるよう、事業所からもできるだけ働きかけ、保護者様との連携を継続して行っていきます。

この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に重要事項説明書、契約書を通し、丁寧に説明しています。	毎回十分な時間を設け、丁寧な説明に努めておりますが、ご質問があればいつでも対応させて頂いております。今後も完全にご理解頂けるまで徹底して参ります。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		悩み相談があった場合は、その都度助言、アドバイスを行うよう努めています。	保護者様との連携は大切な事柄だと認識しており、いつでもお悩みやご相談に対応させて頂けるよう、話しかけて頂けるよう今後も努めて参ります。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		昨年4月ペアレントト・レーニングの内容を含む講演会を開催しました。	現時点では、保護者会は実施できておりませんが、保護者様のご意向に従い、開催内容等について検討して参ります。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		現時点までに重大な苦情を頂くことはありませんでしたが、相談があった場合は、速やかに対応させて頂く準備をしています。	児童や保護者様のご意見には積極的に耳を傾け、誰もが相談しやすい環境作りに努め、日頃からご理解と連携の取りやすい環境を目指して参ります。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		季節毎に「おたより」を発行し、またブログで事業所の活動内容をご紹介します。公式Webサイトについては、保護者様へご案内を配布しています。	定期的な会報、ホームページでの活動報告は今後も行って参ります。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報に関わる内容については充分注意して取り扱っています。	個人情報に記載された書類は、今後も取扱いに充分な注意を払い、保管も施錠可能な書庫に保管いたします。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者様や利用児童に合わせて色々な方法で伝達するよう努めています。	口頭での連絡や相談への対応だけでなく重要事項はご家族で確認出来るように書面にてお伝えし、小まめに保護者様にお伝えする機会を設けるよう配慮して参ります。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		地域住民のご招待などの交流に関しては、受け入れ態勢、利用児童の安全への担保体制が整わず、今年度は実現できておりません。	保護者様のご意向も伺いながら、交流について慎重に検討を行い、今後の検討課題と致します。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		各マニュアルはいつでも確認できる様、室内に掲示しています。	保護者様にも都度周知し、確認しやすいよう掲示場所への配慮も行って参ります。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		今年度は紙芝居を活用し、児童が集中して学べるよう工夫した訓練を開催致しました。	命を守ることを第一に考え、今後も火災、地震、風水害についての避難訓練を毎年定期的に行なって参ります。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		行政開催の研修に参加し、参加した職員から全職員へ伝達する方法などで研修会を行っています。	虐待防止はまず職員への共通理解が重要だと考えており、今後も繰り返し研修を行い、虐待が起きないように、しっかりと全職員へ周知徹底に努めて参ります。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		利用契約書に身体拘束の禁止を記載しており、生命又は身体を保護する為にやむを得ず身体拘束を行う場合は、あらかじめ文書により保護者の同意を得るようになっています。	本件についてもまずは職員への共通理解が重要であるため今後も繰り返し研修を行い、今後も徹底した取り組みを行って参ります。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アレルギーについては各職員が把握できる様表にまとめ、おやつの際は毎回確認し提供しています。	アレルギーについては、ご利用開始時に保護者様へ確認し、必要場合は医師の指示書を事業所に控え、掲示し、今後も全職員が周知できる様努めて参ります。
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットは都度記録しています。気付きの記載と共有を習慣化し、再発防止に繋げることが大切であるため、会議の場で全員に周知し、共通理解に努めています。	記録を作成していく事が事故を未然に防いでいく対策であると考えておりますので、今後も継続して作成を行い、最初防止に努めて参ります。	

この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。